

農研機構シンポジウム「畜産業と環境保全の両立に向けて」の開催要領

1. 開催趣旨

近年、畜産経営において家畜排せつ物法などの法令の順守や、より環境保全の高い生産体系が求められています。また、国民環境意識の高まりや、地球温暖化問題の顕在化により、国際的にも環境保全の高い生産体系の重要性が増してきています。一方で、環境対策の実施にあたっては、施設整備に多額の費用が必要であるほか、そのための労力を必要とするなど、経営に負荷をかける面もあります。近年、低コストで環境対策を改善する例や、逆に環境対策を実施することにより経営の改善にも資するような技術も確立されつつあり、むしろ環境対策の実施により生産体系の強化が期待できます。農研機構では行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能で、普及が期待できる研究成果のなかから、重点的に普及が必要な成果として「環境に配慮した豚用アミノ酸バランス改善飼料」を選定しております。本成果は養豚経営に導入の検討をお願いしたい一押しの成果であり、この技術体系の普及拡大を図ることを目的にシンポジウムを開催し、情報提供を行います。

2. 開催日時

平成 30 年 3 月 1 日（木曜日） 10：00～16：30（受付開始 9：30～）

3. 開催場所

発明会館：東京都港区虎ノ門 2-9-14 Tel: 03-3502-5499

4. 開催内容：

1) 主催者挨拶：農研機構

2) 講演

座長：鈴木一好（農研機構畜産研究部門）

畜産環境問題をめぐる情勢

10：10～10：35

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 田島隆自

座長：新里 出（味の素株式会社バイオ・ファイン研究所）

塔ノ上 毅（住友化学株式会社アニマルニュートリション事業部）

第 1 部 アミノ酸バランス改善飼料導入のメリット（概論）

飼料用アミノ酸利用による総合的な環境負荷低減効果

10：35～11：00

農研機構本部経営戦略室 荻野暁史

第 2 部 アミノ酸バランス改善飼料導入のメリット（各論）

(1) 排水処理負荷低減効果

11：00～11：25

- 農研機構畜産研究部門 長田 隆
- (2) 悪臭防止と温室効果ガス抑制効果 11:25~11:50
農研機構畜産研究部門 福本泰之
- 第3部 アミノ酸バランス改善飼料導入への課題
- (1) 畜産環境と経済性の同時評価 13:10~13:35
京都大学 大石風人
- (2) J-クレジットの活用 13:35~14:00
フィード・ワン株式会社 渋谷秀行
- 3) 総合討論 (45分) 司会:川島知之(宮崎大学) 14:15~15:00
講演者を交えての討論
高田良三(新潟大学):栄養管理面からの提案
有田芳子(主婦連合会):消費者からの畜産物生産への提案
淡路和則(龍谷大学):生産現場や畜産経営研究からみた課題と提案
- 4) パネル展示などの関係団体の関係情報の提示 (5題程度) 15:15~16:30
汚水浄化を中心に、温暖化抑制や悪臭防止に関する研究成果の展示を行い、関連団体への周知に努める。

5. 参集範囲:

畜産関係組織や農業関係組織に属する方、飼料メーカー担当者等
定員 300名

6. 申込み先等

参加費:無料

方法:申込み受付ウェブサイト

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078385.html>

または、必要事項(氏名、所属、電話番号)を記載のうえ、下の事務局にファクスにてお申し込みください。

お申込み締め切り日時:平成30年2月8日(木曜日)

事務局:農研機構畜産研究部門企画管理部 木元、畜産環境研究領域 鈴木

Tel: 029-838-8292 Fax: 029-838-8606 E-mail: koho-nilgs@naro.affrc.go.jp

7. 主催等

主催:農研機構

共催:味の素アニマル・ニュートリション・グループ株式会社、住友化学株式会社、茨城県畜産センター

なお、講演内容は予告なく変更されることがあります。